



諫早湾干拓地では、営農時の化学農薬使用を必要最小限にすることに努めています。

一般的にスイートコーン栽培において、黄色灯を使用したヤガ類の防除を行った場合、雌穂の出穂遅延や雌穂先端が包皮から突き出る、先端突出の生理障害が発生することが確認されています。

そこで、スイートコーン栽培における緑色発光ダイオード(LED)点灯と生物農薬(BT剤)を組み合わせたヤガ類の減化学農薬防除体系と雌穂出穂・雌穂への影響を検討しました。

緑色LED点灯とBT剤との組み合わせによる減化学農薬防除体系は、化学農薬防除体系とヤ

## スイートコーンのヤガ類

# 緑色LEDとBT剤 組み合わせ被害軽減

ガ類に対する被害軽減効果が同等です。

緑色LED点灯単独では、ヤガ類に対する被害軽減を示すも

各区の食害雌穂率

| 処理区             | 食害雌穂率 (%) |    |
|-----------------|-----------|----|
| 緑色LED+BT剤(2回散布) | 8         | b  |
| 緑色LED           | 27        | ab |
| BT剤(2回散布)       | 20        | ab |
| 化学農薬防除(4回散布)    | 13        | b  |
| 無防除             | 35        | a  |

1区20雌穂 3反復調査  
縦の異なる文字間にはTukey-WSDの多重検定により5%レベルで有意差あり

の、化学農薬防除体系に比べてヤガ類に対する被害軽減がやや低い傾向を示します。表。

また、緑色LED点灯はスイートコーンの出穂時期を遅延させず、さらに、雌穂の異常突出も発生させず、雌穂調整重に対する影響を与えないことが確認できました。

(長崎県農林技術開発センター 干拓営農研究部門専門研究員 芳野豊)